



Interview

市立佐倉河幼稚園  
小野寺 一恵 園長補佐(54)

本園では、ダンスキャラバンに参加した後、運動会、文化発表会、そして700日前イベントで、園児たちが「わんこダンス」を披露しました。キャラバンでもおもちやそばつちと触れ合った園児たちは、国体への興味が芽生えて、身近に感じるようになったようです。

また、園児たちのダンスを見たご家族も国体に関心を持たれたり、活動を通じて国体への興味や関心が波及していると感じます。



700 日前イベントでの「わんこダンス」

「選手たちだけじゃない」と。全国の選手や応援団を迎える街をつくる人、地元の人、ボランティアとして運営を支える人、みんなさまざまな形で両大会に参加し、楽しんでいました。

また、競技会場や沿道などを花でいっぱいにして、全国から本市を訪れるたくさんの人たちの「おもてなし」をしようという「花いっぱい運動」(広報おうしゅう9月号に掲載)。市実行委員会では「花いっぱいサポーター宣言!いわて国体・いわて大会応援花壇」として同運動に取り組んでい

## 参加する

長崎県での取材を終え、おもちちは思いました。「両大会に参加していたのは、選手たちだけじゃない」と。

全国の選手や応援団を迎える街をつくる人、地元の人、ボランティアとして運営を支える人、みんなさまざまな形で両大会に参加し、楽しんでいました。

そして、おもちちは、今回の取材で長崎県が大好きになりました。それは、そこで出会った人たちがとても温かかったからです。「奥州市に来てくれる人にも、同じ思いを感じ

て欲しい」と、強く願うようになっていました。

現在、県や市は、両大会に向けてさまざまな取り組みを実施しています。「ダンスキャラバン」では、キャラバン隊が県内の幼稚園や保育園などを訪問し、園児たちに「わんこダンス」を広めています。「園児たちは、しっかりと理解できなくても、両大会を身近に感じるようになったようです」と話すのは、佐倉河幼稚園の小野寺園長補佐。

園児たちのかわいらしいダンスが、両大会への関心を深めるきっかけになっているようです。

また、競技会場や沿道などを花でいっぱいにして、全国から本市を訪れるたくさんの人たちの「おもてなし」をしようという「花いっぱい運動」(広報おうしゅう9月号に掲載)。市実行委員会では「花いっぱいサポーター宣言!いわて国体・いわて大会応援花壇」として同運動に取り組んでい

### 国体の前に…

#### 会場へ観戦に行こう!

市は、希望郷いわて国体に向けてバスケットゴールを購入。市総合体育館に設置しました。12月に開催されるバスケットボール女子日本リーグで初めて利用されます。日本トップレベルの熱い戦いに、ぜひお越しください。

- 期日 12月21日(日) 午後1時～
- 会場 市総合体育館 (Zアリーナ)
- 対戦カード デンソー vs 三菱電機



信じよう。スポーツの力を。  
FOR ALL SCORES OF JAPAN  
バスケットゴールの購入は、(独)日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成金の交付を受け、実施しました。

く市内の花壇(個人宅は除く)を募集しています。さらに、市実行委員会では、11月から国体運営ボランティア「奥州おもちサポーターズ」の募集を開始しました(広報おうしゅう11月号に掲載)。パンフレットは水沢総合支所事務局および各総合支所総務企画課、各地区センターに配置。活動には1日単位から参加することができ、個人でもグループでも応募可能です。

国体や大会は、みんなの手でつくり上げるもの。本県で46年ぶりに開催される希望郷いわて国体と、初開催となる希望郷いわて大会に、ぜひ自分らしい形で参加して、両大会を熱く盛り上げましょう!



●パンフレットは市実行委員会ホームページからもダウンロード可

国体会場での受け付けや案内、お弁当の引き換えなどを担当しました。最初は戸惑いましたが、自治体職員や他のボランティアのおかげで、すぐに慣れることができました。

また、自作した国体マスコットのペーパークラフトがとても好評で、国体ホームページに公開してもらえました。自分がやりたいことや得意なことが、何か面白いことにつながるかもしれませんね。

Interview

長崎県佐世保市  
会社員  
久保田 正史 さん(38)



## 支える

会場での応援に思わず熱が入ってしまい、少し疲れたおもちち。一休みするため休憩所にやってきました。ここでは、たくさんのボランティアスタッフが、選手や観客のために活動していました。

国体色に染まった街並みや、観客の熱い応援、そして、選手たちの気迫溢れるプレーに気を取られていましたが、おもちちがここまで気持ちよく取材できていたのは、ボランティアの皆さんののおかげではなかったでしょうか。「選手の皆さんの、試合中



休憩所では選手や観客がくつろぎます



とは違う和やかな表情や会話が印象に残っています」と、佐世保市の会社員・久保田さんは笑顔を見せました。会社勤めの久保田さんは、周囲の協力もあってボランティアに参加できたといいます。「普段の仕事では得られない貴重な経験ができ、一生の記憶に残るイベントになりました」と、振り返りました。

また、長崎がらばらん大会の休憩所でドリンクサービに参加できたといいます。「普段の仕事では得られない貴重な経験ができ、一生の記憶に残るイベントになりました」と、振り返りました。



スタッフの皆さんが笑顔で迎えてくれました



ドリンクを手渡す高校生ボランティア

Interview

長崎県立大村城南高校  
総合学科福祉・生活系3年  
左・川崎 萌乃 さん(17)  
右・山口 佳奈 さん(17)



私たちは、将来福祉に関する仕事に就くことを目標に、現在、福祉系の学科で勉強に励んでいます。

障がいを持った人が全国から集まる「長崎がらばらん大会」。ハンディを持った人たちにどのように接したら良いのかを学び、将来への経験を積みたいと思ってボランティアに参加しました。全国の選手の皆さんといろんな話をする事ができ、良い経験になりました。